

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部土木局 地域道路室	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	地域道路室長 中村 誠 (課長補佐兼県道係長 松田 智)	内線	4362 (4376)
------	-------------------	---------------------	---------------------------------	----	----------------

事業種目	道路	事業名	事業区間	総事業費	9.8億円
		道路改築事業 主要地方道 大谷鮎原神代線	南あわじ市 榎列掃守	内用地補償費	6.1億円
所在地				着工予定 年 度	完成予定 年 度
南あわじ市榎列掃守				H21	H26
事業目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> ・本路線は、淡路島内陸部を縦断する幹線道路で、淡路地域の交流連携を促進する機能を担うとともに、生活道路としても重要な役割を担う道路である。 ・また、災害時に1次緊急輸送道路(国道28号)を補完する道路であり、緊急輸送道路の代替路線としての役割を果たす。 ・当該区間は幅員狭小であり、大型車のすれ違いが困難であるとともに、通学路でありながら歩道が無く、交通安全上においても危険な状態にある。 ・区間内の掃守交差点では、朝の通勤時に右折車両による渋滞が発生している。 ・本事業により、安全で円滑な交通を確保するとともに、災害に強い道路ネットワークを構築する。 			道路改築事業(現道拡幅)L=600m 【構造規格】：3種3級(平地部) 【計画幅員】：W=6.0(10.0)m(2車線+片側歩道) 【計画交通量】：7,000台/日(H42) 【現況交通量】：7,293台/日(H16実測) 【負担割合】：県10/10(合併支援道路整備事業)		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性 安全・安心を確保する 道づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・当該区間は、死傷事故率が県内平均100億・台/kmを大幅に上回る271.3億・台/kmとなっており、交通事故の危険性が高いため、本事業により、利用者の安全性、円滑性を確保する。 ・掃守交差点では、朝の通勤時間帯に右折車両が原因となる慢性的な渋滞が発生しており、本事業において右折レーンを新設し、交通混雑の解消を図る。 ・島内陸部を縦断する本路線は、平成16年10月の台風23号災害において、物資輸送、災害復旧作業等に重要な役割を果たしており、防災機能のさらなる向上が求められている。 				
くらしと交流を支える 道づくり	・南あわじ市の交通の要所として、各支所間の連携を強化し、新市の一体感醸成を図る合併支援道路として、合併後の新たなまちづくりを支援する。				
(2)有効性・効率性 有効性	<ul style="list-style-type: none"> ・費用便益比 $B/C = 1.4$ ・2車線の拡幅、及び歩道設置により、走行時間短縮とともに安全性と利便性が向上し有効性が高い。 				
代替性	・周辺土地利用状況等から、現道拡幅案が最適である。				
効率性 (事業執行環境)	・拡幅計画については、地元説明会を通じて地元合意を得ており、円滑な事業実施に向けた地元の協力体制は整っている。				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・円滑な交通の確保、歩道の設置により、沿道騒音の低減など、地域の環境改善に寄与できる。 ・景観に配慮した高欄を設置する。 ・歩道部には透水性舗装を施工する。 				
(4)優先性	・合併後の新たなまちづくりを支援するとともに、地域交通の安全性・円滑性を確保するため早期事業着手が必要である。				

(主)大谷鮎原神代線 位置図

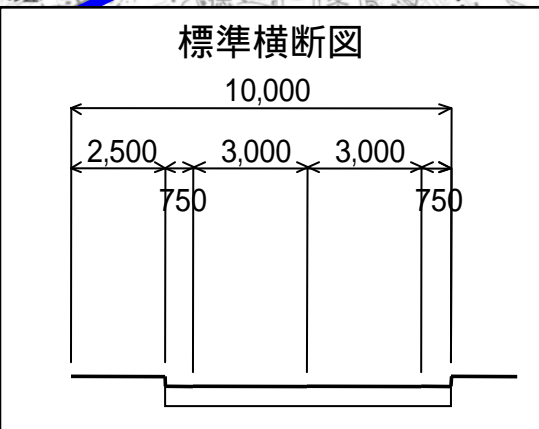
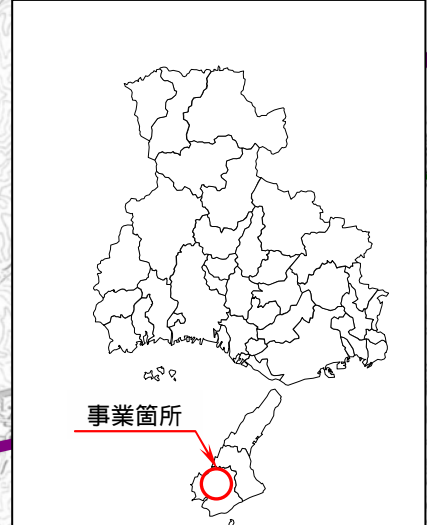
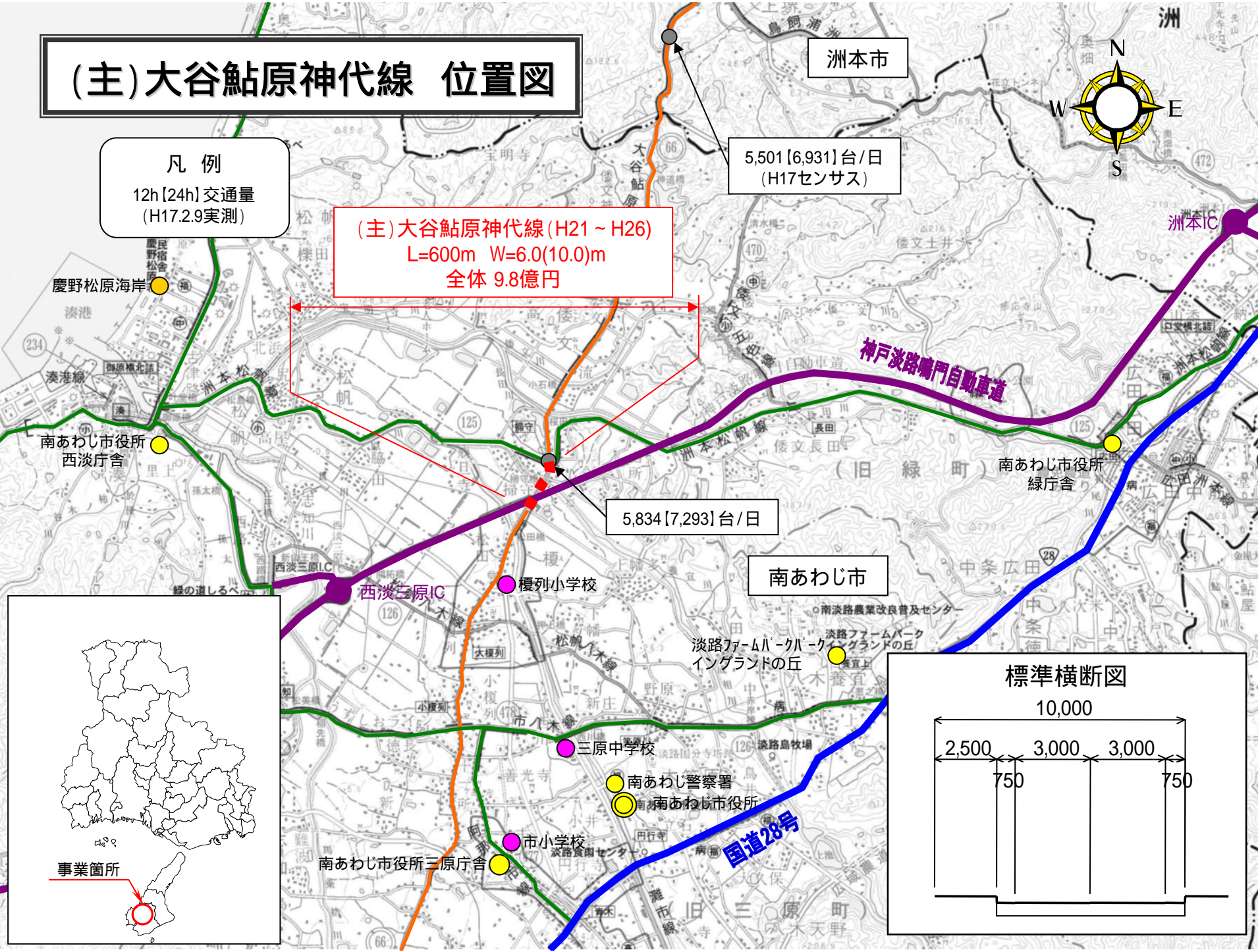
凡例

12h [24h] 交通量
(H17.2.9実測)

(主)大谷鮎原神代線 (H21 ~ H26)
L=600m W=6.0(10.0)m
全体 9.8億円

5,501 [6,931] 台/日
(H17センサス)

5,834 [7,293] 台/日



事故発生状況

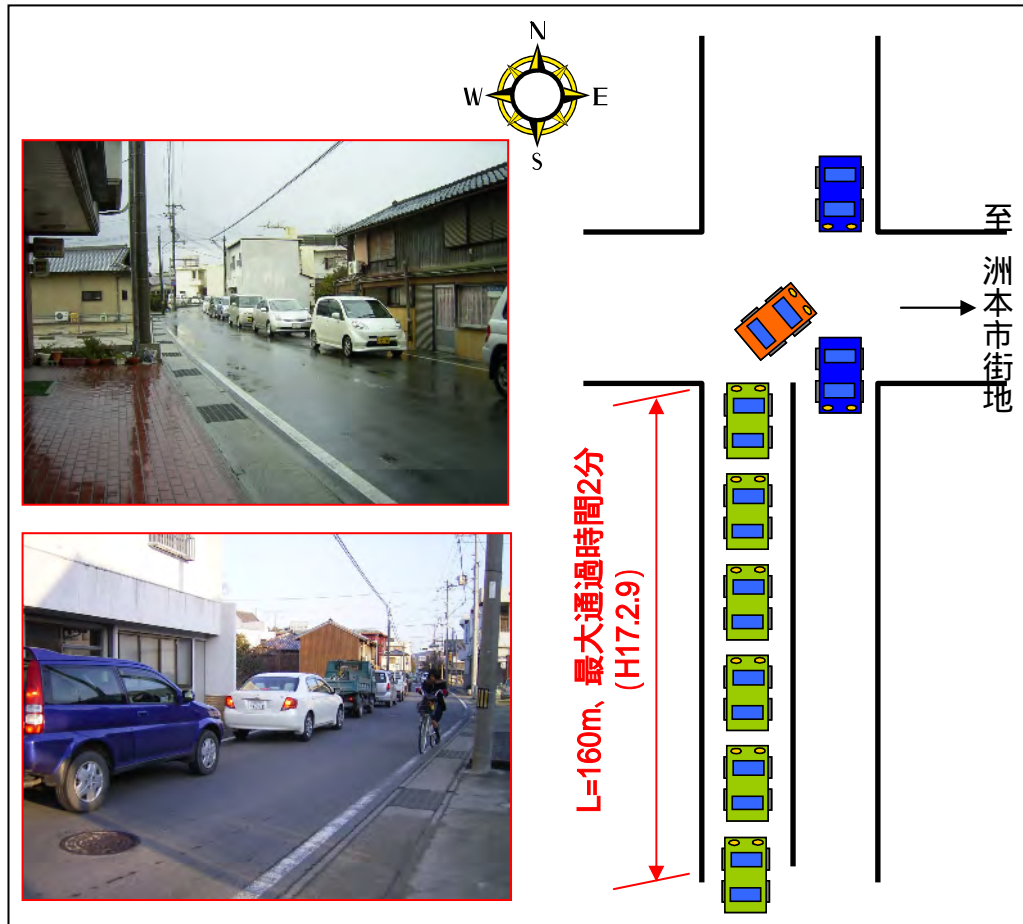


■■■■■ 計画ルート

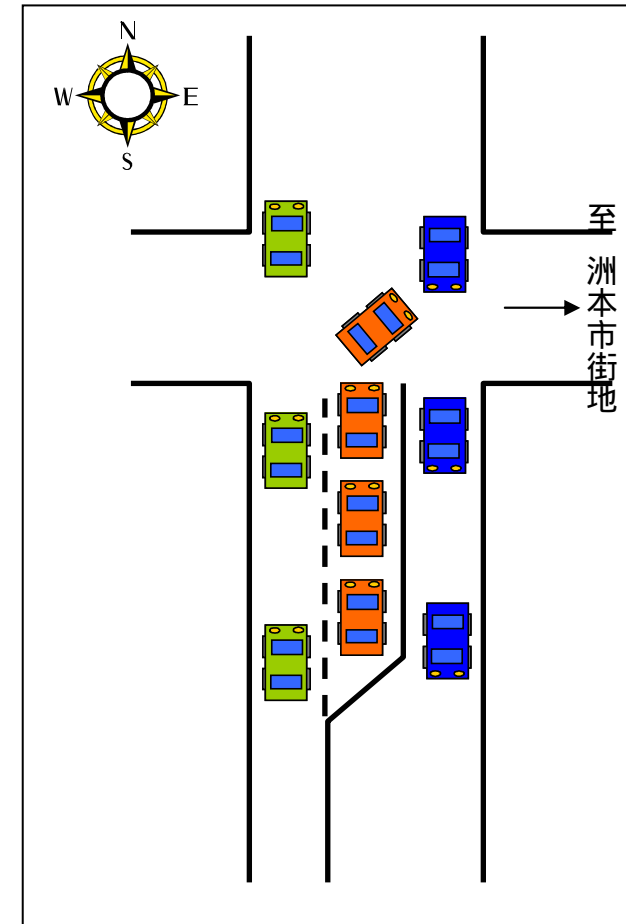
掃守交差点を含む交差点付近に集中して、交通事故が発生し、本事業区間の死傷事故率は、271.3件/億台・kmと県平均約100件/億台・kmを大幅に上回っていることから、早急な対策が必要である！

- ⊗ 過去五年間(H15.7 ~ H20.6)の人身事故(車両相互)
- ⊗ " 人身事故(人対車両)

掃守交差点の課題

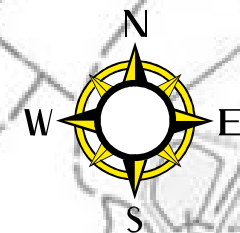


右折レーンが無い
ため、主に朝の通勤時間帯に
慢性的な渋滞が発生している。
また、交差点付近に集中して事故も発生している。



右折レーンの整備により、
交差点の安全で
円滑な交通流が確保される。

歩道整備の必要性



歩道未整備のため、歩行者の安全が未確保。



中学校

榎列小学校

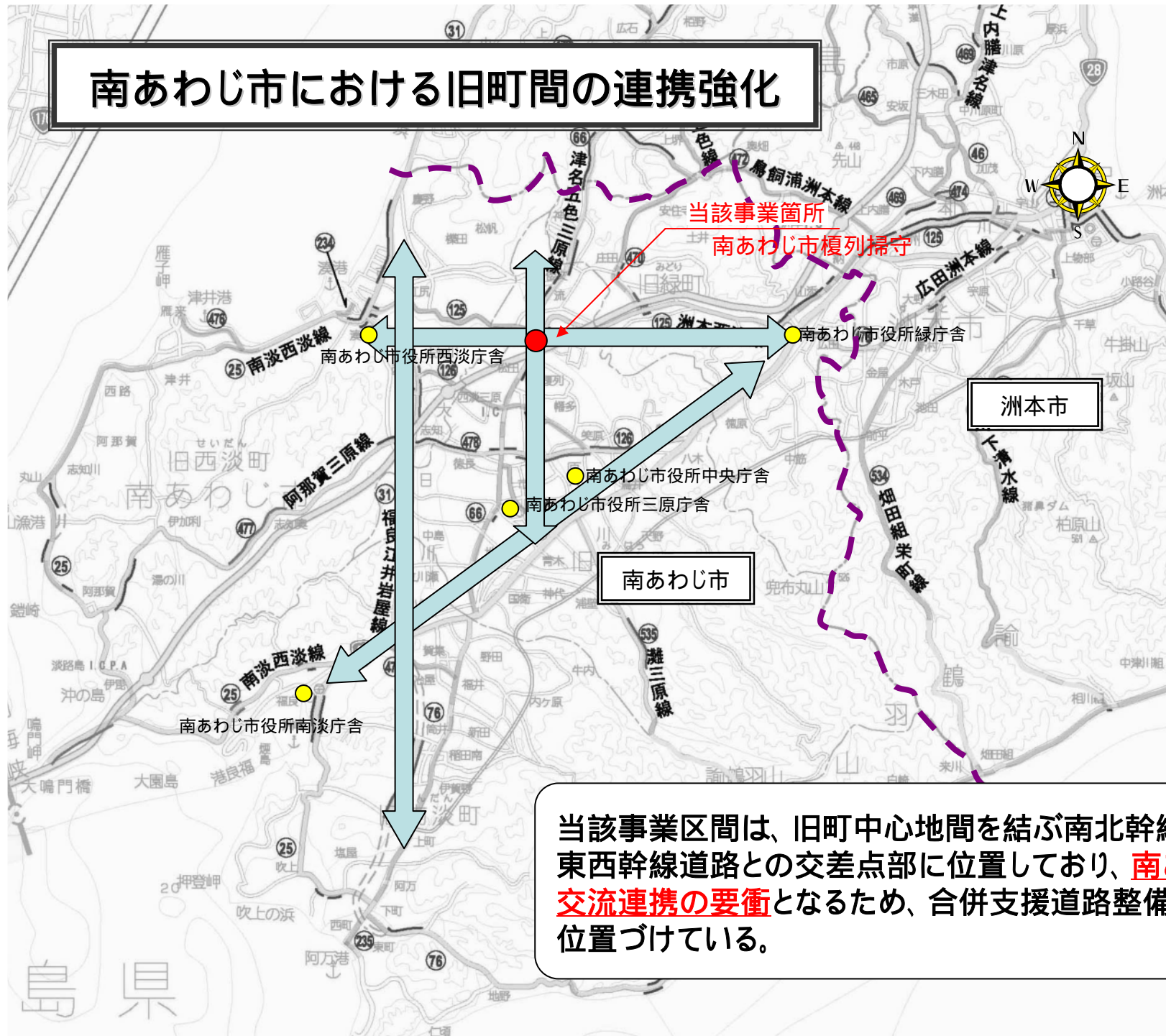
掃守地区
小学生52名
中学生30名

倭文地区
小学生31名
中学生28名

山所地区
小学生27名
中学生6名

本整備区間の一部は、小中学校の通学路となっているが、現道には交通量が多いにもかかわらず、歩道が整備されておらず、大変危険な状況である。
(自転車歩行者129人・台 / 12h:平成17年2月調査)

南あわじ市における旧町間の連携強化



当該事業区間は、旧町中心地間を結ぶ南北幹線道路と東西幹線道路との交差点部に位置しており、**南あわじ市内の交流連携の要衝**となるため、合併支援道路整備事業に位置づけている。

台風23号(H16.10.20)災害状況

凡例

- 道路災害箇所
(国道28号、福良江井岩屋線、洲本五色線)
- 道路災害箇所(その他)
- 通行止め区間
(H16.12.13時点)
- 2次緊急輸送道路
- 1次緊急輸送道路
- 大谷鮎原神代線



(主)大谷鮎原神代線は被災箇所が少なく、被害が甚大であった
1次緊急道路(国道28号)の代替え路線として、物資輸送や
 災害復旧作業等に重要な役割を果たした。

国道28号 洲本市炬口 崩土